日本鉄鋼協会記事

理事会

第9回理事会 開催日: 12月17日. 出席者: 藤本会長他, 33名.

1. 日本材料学会主催 最近の高温における構造物の強度設計の基礎とその応用に関する講習会協賛の件

協賛することを決定.

2. 一般表彰選考委員会委員委嘱に関する件

委員長(会長)

委員を芝崎, 八木各副会長, 荒木編集, 吉崎企画, 三本木研究各理事, 三島, 山岡, 沢村各前会長, 木下製鉄課長に委嘱することに決定.

3. 次期役員候補選考委員会委員委嘱に関する件

委員長を藤本会長に, 委員を芝崎, 八木各副会長, 荒木編集, 吉崎企画, 三本木研究各委員長, 松下, 三島, 山岡, 伊藤, 沢村, 角野, 塩沢, 浅田, 湯川, 佐野各前会長に委嘱することを決定.

4. 第2回日ソ製鋼物理化学シンポジウム開催資金に関する件

関係会社分担金200万円, 参加費30万円, 協会負担金187,800円, 合計2,487,800円の予算案が承認された.

5. アジア鉄鋼協会設立に関する件

東南アジアの経済開発に関し, ECAFE で検討中であるが, アジア鉄鋼業を発展促進するために中心となる機関としてアジア鉄鋼協会の設立を考えているが, 各国政府がメンバーとなるので ECAFE の下部機構という形で組織を考えることになつた.

6. 窯業協会主催高温材料講習会(高温発生技術)協賛の件

協賛することを決定.

企画委員会

第9回委員会 開催日: 12月12日. 出席者: 吉崎委員長, 他10名.

1. アジア鉄鋼協会に関する件

東南アジア経済開発に関し ECAFE で検討中であり, アジア鉄鋼業の発展を促進するためアジア鉄鋼協会の設立を検討中で, 企画委員会としては基本的には設立することは問題ないが, 活動の問題点を検討のうえ, 計画を進めることになつた.

2. クライマックス・モリブデン社論文賞設定について

規程案が承認され, 賞名については個人賞名にしたほうがよいということになつた.

3. 昭和44年度予算について

一次査定予算案16200万円が, 企画委員会として承認された.

編集委員会

第5回運営委員会 開催日: 12月17日. 出席者: 荒木委員長, 他15名.

1. 俵論文賞選考に関する内規改正について

評価項目を決定した.

第11回和文会誌分科会 開催日: 1月10日. 出席者: 荒木主査, 他18名.

1. 論文審査報告

7件の報告があり, すべて掲載可.

2. 「鉄と鋼」アンケート事項について

項目について再検討の上決定し, さつそくアンケートすることになつた.

第10回欧文会誌分科会 開催日: 12月16日. 出席者: 橋口主査, 他6名.

1. 3件の論文について審査報告がなされた.

2. Trans. ISIJ に投稿勧誘をする論文が1件決められた.

3. Research Notes あるいはそれと同等の長さの研究論文の審査料金は1件につき1000円と決められた.

4. Trans. ISIJ には掲載準備のできた原稿から先に掲載するが, 一号内では受付月日の早いもの順に掲載することが改めて確認された.

第9回出版分科会 開催日: 12月18日. 出席者: 佐藤主査, 他12名.

1. 「鋼の熱処理」について

原稿は1件未脱稿のものを除き, あとは編集委員会内で処理する, 刊行は9月になつた旨執筆者に詫びる, など決定した.

2. 「圧延理論分科会報告書」について

査読後の問題点を再修正中との報告があつた.

3. 「厚板マニュアル」について

査読後の問題点は修正され再査読後承認された.

4. 「特殊鋼部会報告書」について

査読を内山幹事, 池田委員に願うこととなつた.

資料委員会

第6回委員会 開催日: 12月6日. 出席者: 草川委員長, 他12名.

Translation B.I.S.I.T.S. の来年度購入に当たつて

事務局側の意見は各社とも継続することを希望しているが, 会社側の意見は利用度が少ないこと, 資料整理の手間・予算の問題などについて意見が出たが次回利用者アンケートをとり, 部門別の利用状況について調べる. 次回その結果について検討.

2. 翻訳依頼について

今後外国から依頼されてきた翻訳については, 受託者側から条件(有料など)を述べて一定のフォームをつくつていくことに決まつた. 「鉄と鋼」記載のものについては協会を通じて行なうよう徹底させるなどの意見が述べられた.

共同研究会

第2回運営委員会 開催日: 12月17日. 出席者: 芝崎

副会長，他 43 名.

昭和43年度第2回共同研究会運営委員会は，43年12月17日13時30分より16時まで，経団連会館1001号室にて，芝崎副会長の司会で開催された．前回議事録確認，事務報告，来年度予算案の説明があつた後，各部会，分科会の経過報告が行なわれた．次に，コンピューターに関する研究の方針について計測部会から説明があつた．今後の共研運営委員会は，各部会，分科会の経過報告は簡単にして，重要な問題を十分討議できるようにしていくべきだという意見が出された．次に，金材研の連続製鋼の問題および鋼材マニュアルの編集について説明があつた．

調査部会

第22回部会　開催日: 12月3，4日．出席者: 石渡部会長，他 65 名.

会議に先だち前部会長木寺淳氏の辞任の挨拶と新部会長の工技院技術調査課長 石渡鷹雄氏 の新任挨拶があつた．

会議は次の項目に関して行なわれた．

1．定期交換資料の報告

設備，運輸量，原単位および作業量などの報告がなされた．

2．「製品の構内輸送工程調査」のまとめ報告

15回部会以来とり上げてきた「鉄鋼業における輸送の問題」の一環として構内輸送工程調査を行ないまとめ報告した．

3．「トラック輸送に関する問題点の調査」について新規テーマとして取り上げられ現行法令下における重量製品輸送車両の改善について，(1)車両改善については日本車体工業会に研究委託した結果の報告，(2) 車両の使い方の改善については道路交通関係，ピギーバック方式などについてさらに検討していくことになつた．また次回部会以降輸送行政面への技術的改善案についても，調査・検討していくことになつている．

……

第36回圧延理論分科会　開催日: 12月11，12日，出席者: 岡本主査，他 46 名.

(株)日立製作所日立工場で開催された．第1日目は議題審議が行なわれ，変形能関係1件，熱間圧延関係（板の圧延）1件，熱間圧延関係（孔型の圧延）3件，冷間圧延関係3件，製管関係2件，計10件の発表がなされ，活発に討論が行なわれた．第2日目は発電機や圧延機製造工場を中心に工場を見学した．終了後，希望者は多賀工場を見学した．

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第11回委員会および第2回部会　開催日: 12月13日．出席者: 作井委員長，他 26 名.

下記の議題にしたがつて開催された．

1．ISO国際会議出張報告

WG4，WG9，WG12の3つの国際会議につき出席者より報告された．

2．ISO国際会議の日本開発の件

3．昭和44年度JIS鉄鋼業務計画

WG4，WG12 の2つの会議を 1970 年日本で開催する件につき，準備委員会を設立することが決定された．

第5回 TC17/SC1 分科会　開催日: 12月4日．出席者: 池上主査，他7名.

1．日本鋼管の委員を前田延貴氏に変更．

2．クロムおよびタングスチンを含む試料中のクロム電位差滴定法は事務局で一覧表を作成し提案法を出すことになつているので，これの到着を待つて見直しを行なう．

3．鋼中いおう燃焼定量法，けい素吸光光度法およびりん吸光光度法については共研化学分析分科会で検討中なので結果を報告してもらうことになつた．

4．鋼中の微量炭素定量方法についての検討結果を1月末日までに報告するように依頼があつたので，前の実験結果およびJIS原案作製委員会における共同実験を合わせて報告書を作りこの英訳文とともに書面審議することになつた．

第2回 WG 9分科会　開催日: 12月3日．出席者: 安藤主査，他 13 名.

10月1日～3日におこなわれた第6回国際会議の出張報告が行なわれ，懸案となつていた color coding の問題および minimum protection の問題に関して日本のコメントを審議した．

第3回 WG12 分科会　開催日: 12月20日．出席者: 三佐尾主査，他7名.

ISO/TC17/WG-12 の海外出張報告が三佐尾主査(日本鋼管) より行なわれた．1968年10月28日より，11月6日まで，フィラデルフィヤの ASTM 本部会議室でWG-12 の国際会議が開催された．議長は Mr. C. L. Kent (U.S.A.)，事務局長は Mr. J. W. Caum (U.S.A.)で，日本側代変として，三佐尾(日本鋼管)，山岡(八幡製鉄)田村(富士製鉄)，小林(富士製鉄)，大橋(日本鋼管)，吉田(鉄鋼協会)の諸氏が参加された．会議はスピーディに行なわれ，日本から提案した5項目はすべてそのとおり採用された．

データシート部会

第1回伸び値と試験片寸法効果分科会　開催日: 12月12日．出席者: 山岡主査，他9名.

第1回分科会であり主査より「現在各社手持ちのデータを整理検討し，もしデータが不足ならば文献からの引用，試験の実施などにより補足し約2年程度でデータシートとしてまとめたい」との挨拶があつた．

次いで主査の挨拶主旨に沿つてデータのまとめ方について検討された．

決定事項

○各社の手持ちデータの整理

対象として 60 kg/mm² 以下の熱延材について幹事会社から提案された書式によりまとめて次回分科会（44年2月）に提出し検討する．

○ステンレス鋼についてはステンレス協会に委嘱する．

○手持データで結論が出なければ文献調査および試験を行なうこととする．

第16回特殊鋼分科会　開催日：12月13日．出席者：西主査，他 12 名．

1．JIS 表示方法改正案の審議

各社にお願いしていたアンケート結果をもとにし検討を行ない答申案の検討を行なつた．

2．特殊鋼鋼材JIS改正原案審議状況の報告．

(i)　いおう快削鋼

(ii)　中空鋼

(iii)　高炭素クローム軸受鋼

以上3件について審議経過報告がなされた．

3．特殊鋼規格分類体系について

小委員会における審議経過が報告され，小委員会からの特殊鋼規格分類体系案の検討を行ない一部修正し全面的に認承した．

……

第24回機械試験方法分科会　開催日：12月18日．出席者：吉沢主査，他 17 名．

1．ISO 事務局より，引張り試験の ISO 規格案に対するイギリス，イタリアおよびドイツの意見が送付されてきたので，検討した．

2．引張り試験のK値の検討

金材技研および日本鋼管で試験した引張り試験のK値に関する試験結果の報告がなされ，それに基づいて各委員より意見が出され，活発に討論された．

……

第2回 JIS 鉄鋼用語原案分科会　開催日：12月9日．出席者：長谷川主査，他 22 名．

第1回分科会において決定された各社分担による品質，品種用語のリストアップ変をもとにして取捨選択を行なつた．(一部)

リストアップ分担

○品質関係用語

製鋼(含連鋳)	八幡
厚板	日鋼
ストリップ	鋼管
棒鋼線材	神鋼
形鋼，平鋼	富士
鋼管	住金
鋳鍛鋼	鍛鋼会

○品種分類用語

その1　鋼の種類	八幡，三菱
その2　半製品	八幡
その3　製品(除鋼量)	富士，神鋼，大同冶金，鍛鋼会
その4　製品(鋼管)	鋼管，住金

第3回 JIS 鉄鋼用語原案分科会　開催日：12月20日．出席者：長谷川主査，他 18 名．

第2回分科会に引き続き各社からリストアップされた用語の取捨選択を行ない一応提出資料を全て検討しおえ，次回2月17日までに用語の意味付けを行なうこととした．

用語の取捨選択は下記のような原則で行なつた．

○他の用語JIS(熱処理用語など)や将来作られる予定の設備，作業用語JISに入りそうなものはできるだけ除く．

○熱処理用語のように「今後JISとして使用する用語を確立するというほど厳密に考えず，用語便覧的な性格をある程度考えて作業する．(ただし同義語，読み方の統一はある程度考える．)

○JIS，JEM などの規格名称をそのまま対象とはせず一般によく使われるものを対象とする．

○鋳鋼品，鍛鋼品の用語は分類，欠陥用語，出席メンバーなどの点から別途関係者で話し合うことにした．

第3回 JIS 中空鋼原案分科会　開催日：12月4日．出席者：高岡三郎主査，他 13 名．

1．JIS 中空鋼改正原案作成にあたつて，前回押出しによる中空鋼製造技術と圧延による製造技術の技術水準が問題となり，今回メーカー側より，圧延による中空鋼製造の際の水孔の最大径，最小径，偏心について寸法別度数分布図と現JISによる不良率が提示された．

規準としての不良率の限界をどの程度にするかはISOなども勘案して決め，それをもとに最大径，最小径，偏心などの許容差の改正原案を作成することになり，次回メーカー側より，最終素案を提出することになつた．

2．ロッドの寿命には，偏肉が影響するので偏心と真円度との関係を明らかにする必要があり，最大厚さと最小厚さの差の許容差を考慮することになつた．

第3回 JIS 熱間圧延鋼板と鋼帯の形状寸法および重量ならびにその許容差原案分科会　開催日：12月5日．出席者：吉田主査，他 20 名．

前回までの審議をもとに事務局で作成した改訂原案について審議を行なつた結果，特に問題なく，1月中に解説書その他を作成し，各委員に配布，2月15日までに書面審議を行なうことになつた．

第5回スーパーフィシャルロックウエル硬さ試験方法原案分科会　開催日：12月10日．出席者：吉沢主査，他 18名．

前回保留になつた試験機の総合精度など4～5の事項について検討を行ない，その後全般的な見通しを行なつた．会議は今回で終了したものとし，今までの検討事に基づいて最終案を作成し，また解説に入れるべき事項をリストアップし，各委員に送付し，書面審議することとした．

クリープ委員会

第6回委員会　開催日：12月5日．出席者：三島委員長，他 25 名．

下記の事項について報告，協議された．

1．43年度クリープ委員会事業概要

2．金材技研クリープデータ連絡分科会の活動状況

3．クリープ試験分科会の活動状況

4．金属材料技術研究所材料試験部の近況報告

5．44年度クリープ試験分科会の事業予定

6．44年度金材技研クリープデータ連絡分科会の事業予定

7．44年度クリープ委員会費概算要求（案）

クリープ試験分科会

第5回分科会　開催日：12月4日．出席者：平主査，

他 28 名.

下記の事項について報告，協議された.

1. スペシメンバンク材の確認試験結果報告と同素材の発送状況報告
2. 高温引張試験装置アンケートの回答結果報告
3. 第3回高温引張共通試験の実施方法
4. クリープおよび高温引張りデータシートの収集について
5. 国際共通クリープ試験結果報告

第2回金材技研クリープデータ連絡分科会　開催日: 12月5日. 出席者: 田中主査，他 11 名.

昭和44年度に金材技研に試験を依頼する鋼種のアンケート結果にもとづいて要望鋼種の選定方法について協議した. 希望鋼種の中より実施を希望する試験機関の多い鋼種を選び出した. 次回にその中より，希望順位を加味して要望鋼種を決定することとした.

第26回鉄鋼標準試料委員会

開催日: 12月4日. 出席者: 池上委員長，他 17 名.

1. 新試料製造状況
   a) 機器分析用標準化試料
   八幡より調整スケジュールの説明があつた.
   b) 微量元素シリーズ
   標準値決定のため分析中
   c) 酸素標準試料 (200 ppm)
   12月中に100組製造終了の予定.
2. 海外販売状況
   {中共へ化学分析用 254 本
   {アメリカへ機器分析用　約1000ドル
3. 鉄鋼標準試料製造合理化計画について

現在各社に負担をかけている試料の切削を関東試料調整所に一括委託して，需要に即応した試料調整を行なう計画を承認した.

鉄鋼基礎共同研究会

純鉄部会

第2回部会　開催日: 12月16日. 出席者: 草川部会長他 17 名.

1. 昭和電工(再電解鉄)→石川島播磨重工業(C脱酸)→金材技研(鍛圧)の工程で作られた純鉄の共通試料を各委員のもとに配布したのでそれらの確認および残りの確認を行なつた.
2. 次いで純鉄についての勉強会として次の3項目の発変および検討を行なつた.
   (i) 純鉄の低温磁気抵抗と純度判定
   東北大　井垣教授
   (ii) Effect of Carbon and Oxygen on Fracture of Iron　金材技研　田賀氏
   (iii) 電子ビーム溶解鉄の結晶粒界脆性破壊
   東工大　坂木氏

新入会員氏名

(昭和43年11月1日～30日)

正会員

国安　鴻　川崎製鉄(株)水島
三浦　幸雄　〃
阿久津昭司　〃　千葉
佐伯　正夫　富士製鉄(株)広畑
河野　六郎　〃　中研
本田　正孝　住友金属工業(株)和歌山
白石　博己　〃　中技研
稲田　忠雄　(株)神戸製鋼所
山根　健一　日新製鋼(株)呉
西山　英喜　三菱製鋼(株)長崎
松川　年道　日立金属(株)安来
田中　寿捷　久保田鉄工(株)
Mihail Mihailov　Bulgarian Embassy Commercial Counsellors Office

学生会員

加藤　欽之　秋田大学鉱山学部
蟹江　真　〃
後藤　隆茂　秋田大学鉱山学部
田村　五朗　〃
宮野　幸治　〃
芳野　文人　〃
許　廷　珪　東京工業大学
松山　誠一　近畿大学理工学部
岩永　侑輔　大阪大学工学部

外国会員

Erich A. Czermak　(Austria)
権　五　文　(韓国)